# ４．点検評価と課題

分子科学研究所は，1993年から３年毎に外部評価委員による点検評価を行い，その報告が分子研リポートに掲載されている。本年度は第４回の外部評価が，５研究系，流動部門，分子制御レーザー開発研究センター，錯体化学実験施設及び統合バイオサイエンスセンターに対して実施された。分子科学の指導的立場にある２名の外国人研究者が，多忙な時間を割いて岡崎を訪れ，数日のインタビューによって的確な評価をされたことに篤く感謝する。研究の第一線で活躍されている，国内の著名な研究者による外部評価でも，分子研が四半世紀以上の歴史を持つ現況，及び法人化を目前に控えた将況を踏まえ，共同利用研究機関としての在り方を含め，多くの貴重な御批判，御意見をいただいた。

国内外いずれの評価においても，分子研での現在の研究水準については，高い評価が与えられている。分子科学の発展の指導的役割を果たす意味で，さらに野心的，意欲的な分野開拓型研究を期待する声が大きかったことが印象に残る。このためにも，分子研の研究者が，所の内外と協力して発展的な研究を行うことが重要である。